

ツインリンクもてぎでの開幕戦以来、第2戦 SUGO は参戦を見合わせ、万全の態勢で挑んだ#111 EXPRIDE G-Tech Sports GT/R はホームコース鈴鹿での第3戦を迎えた。

6月11日の公式予選に先駆け、9日木曜日から練習走行を開始した。

「鈴鹿に間に合わせたニューエンジンが木曜日のプラクティスでエンジンオイルのブローバイが多く吹いちゃう現象が出たので、もてぎで使っていたエンジンに交換したんです。ミッションももてぎで使用したままだったのでデフの効きが悪くて急遽、交換してもらいました」と武井寛史。

「木曜日にはじめて鈴鹿でこのクルマをドライブしました。もてぎと比べるとマシン特性はあっていたと思うんですが……」と古田聡。

「金曜日の2回目の専有走行で、ヘアピン手前で厳しいラインをとってしまい、他車との接触から左前からタイヤバリアにクラッシュしてしまいました」と古田は肩を落とした。

マシンはインタークーラー、オイルクーラーなどにダメージがあり、予選日の早朝まで費やしメカニックは懸命にマシンを修復した。

「SUZUKA”S耐”サバイバル」と名付けられた第3戦には特別ルールが導入された。

ST-X、ST-1については従来通りAドライバー、Bドライバーが通常通りの計時セッションを走り、その合計タイムでスターティンググリッドを決定するが、#111 EXPRIDE G-Tech Sports GT/R の参戦するST-4クラスを含む、ST-2以下のクラスについては計時予選で各クラス上位3台のみに決勝進出の権利が与えられ、残りのチームは午後に行われるレース形式の「セカンドチャンス100」で再度ふるいにかげられることになったのだ。

その最初の計時セッションは午前10時10分にST-4、ST-5からなるグループ2のセッションがABドライバーそれぞれ20分ずつ行われた。

この日の鈴鹿の天候は晴れ。朝から汗ばむ陽気の中、ABドライバーとも決勝進出をかけて懸命のタイムアタックを行った。Aドライバーの大瀧は2分27秒720でクラス22番手。

Bドライバー武井は28秒838でこちらも22番手とした。

このため、クラス22番手からの100分間のレース「セカンドチャンス100」に総合27番手のグリッドでスタートすることとなった。

「メカさんの頑張りでもてぎを走ることができました。100分のレースしっかり完走して明日に残れるチャンスがあればと思います」と大瀧賢治

午後4時10分、フォーメーションラップからのスタートを切る予定だったが、残念ながら隊列の中に#111 EXPRIDE G-Tech Sports GT/R の姿はなかった。

「レース前の15分間のウォームアップ走行で左フロントに違和感があったんです。深刻な問題だと思いました。ロアアームのボルトが振動やジャッキアップでゆるんでいたんです」とスタートドライバーを担当した大瀧。このためチームは懸命の作業を行うが、最後尾車両が通過してからのピットスタートとなってしまった。

36 台でのレースは、1 周で総合 34 番手、2 周目で 31 番手、3 周目に 26 番手まで浮上。25 番手となった 6 周目にスタートの大瀧から武井にドライバー交替のピットイン。レギュレーションで 100 分のレースながら 2 回のピットストップが義務付けられていた。

「スタートから 10 分ぐらいの時にピットインしました。SC の入る前でした。クルマのバランスは悪くないと思いましたが、レースエンジンじゃない部分ハンデがありました」と大瀧。

9 周目から 15 周目までコース上のオイル処理のため、SC カーランとなり、15 周目には 21 番手までポジションを上げていた。24 周目、2 度目のピットストップのタイミングでは 15 位までポジションをアップ。ステアリングを握っていた武井から再び大瀧へバトンをつなぐ。だが、大瀧は 2 周で再びマシンをピットに戻すこととなってしまった。残念なことに、この 26 周でコースに再び戻ることはできなかった。

「残り 30 分でフロントタイヤを新品に交換しようと判断しました。エアジャッキでフロントをアップして、タイヤ交換をしたら、緩みかけていたボルトが接地したタイミングでロアアームに不具合が出たようです」と武井。「でも、チームの総合力は着実に上がっています。レース前の不具合も 5 分ぐらいで修復してピットスタートできました。9 月上旬の富士へ向けてアップグレードする予定なのでいいマシンに仕上げたいです」と続けた。

「9 時間レースの富士へ向けて足回りのセットアップと、レース用エンジンのトラブルの原因究明と、クラッシュしたマシンの損傷を修正して 9 時間しっかり走りたいです」とは大瀧。

13 台のみが日曜日の 4 時間レースに駒を進めることができた今回の決勝レースには、残念ながら 19 番手で出走を果たすことができなかった。

次戦、富士は 9 月 3 日から 4 日に行われる予定だ。